

J-STAGE NEWS

ISSN 1346-1990

2013年3月30日発行

J-STAGE

J-STAGEニュース

No. 35

独立行政法人
科学技術振興機構

電子ジャーナルの最新情報をおとどけるJ-STAGE機関紙

今号のおもな記事:

- J-STAGE3 機能拡張の状況及び平成 25 年度の予定
- CLOCKSS との連携について
- シリーズ学会訪問「日本素材物性会」様
- 国内向けプロモーション報告
- 平成 24 年度利用学協会意見交換・説明会を開催しました ほか



J-STAGE3機能拡張の状況及び平成25年度の予定

J-STAGE は昨年 5 月に新バージョンになりました。リリース直後は、様々な不具合等により学協会の皆様にご迷惑をおかけしました。その後、改修を行い、一部を除いてほぼ安定的に運用できる状況になっております。これまでに行った改修内容については、サイトの「J-STAGE について」において、掲示しております。リンクセンターシステムとの連携における引用文献や被引用リンクに関する不具合についてもほぼプログラム改修を終え、データ修正も並行して実施しています。なお、新規掲載論文への JaLC DOI の付与を 2 月末から開始しています。また、3 月末を目途に J-STAGE 過去分掲載論文への一括 DOI 付与を行います。

平成 25 年度には、以下のような改修を予定しています。

1. 学協会側で行える操作範囲を拡大いたします。

平成 25 年 1 月の説明会・意見交換会にてご説明いたしましたが、平成 24 年度末までに(1)奥付、(2)学協会名(著作権表示)、(3)資料ポリシーを学協会側で変更できる機能改修を行いました。さらにご要望を受けて平成 25 年度では、記事修正を条件付きで学協会側にて行えるようにいたします。これにより、J-STAGE の運用効率化を図ります。

2. COUNTER 規格のバージョンアップに対応いたします。

現在、J-STAGE が準拠している COUNTER のバージョンは Release3 ですが現在の最新バージョンは Release4 です。COUNTER 事務局では、平成 25 年末までに Release4 に実装することが準拠のために必須となっており、J-STAGE でも実装する予定です。Release 4 では、オープンアクセス記事全文へのアクセス数や、全文アクセスできなかった回数のレポートが必須となっています。

3. JATS 規格のバージョンアップに対応いたします。

現在、J-STAGE が準拠している全文 XML 形式のデータフォーマットは JATS(Journal Article Tag Suite)の 0.4 版です。昨年 8 月に正式版である 1.0 版が公開されました。このバージョンに対応いたします。これにより、多言語対応できる書誌項目が増えます。また、同時に現在未対応の要素にも対応し、より多彩な表現に対応できるようになります。また、著者 ID である ORCID にも対応することを検討しています。

4. CLOCKSS サービスに対応します。

電子ジャーナルのダークアーカイブサービスである CLOCKSS との連携を行います。CLOCKSS では、定期的に記事コンテンツを収集することで恒久保存を実現しています。CLOCKSS が収集できるようシステム側の改修を実施いたします。(2 面参照)

5. データ登載、データ品質の向上に向けた機能を実装します。

早期公開から本公開を行う際の操作をより簡略化することにより効率的にデータ登載作業が行えるようにいたします。また、引用文献データ登載時に原文自動解析ボタンをデフォルトで押下することにより、引用文献のリンク登録率を向上させることを企図します。

J-STAGE では、他にも記事単位でのインパクト・流通度計測(Altmetrics)に対応するための機能などの実装も検討しております。今後ますます機能を充実させ、高いビジュアル、高度な応用、他システムとの連携を進めてまいります。ご期待ください。



CLOCKSS との連携について

<経緯>

J-STAGE のシステムデータ、公開データ、編集データ、認証データ等は日次でテープ媒体にバックアップを取得し月次でテープを遠隔地に運搬、災害などの備えとしている。しかしながら、ハードウェアが破損した場合、復旧までに時間がかかることや、テープに何等かの不良があった場合には復旧できない等、万全とは言えない面がありました。J-STAGE 利用学協会様から平成 23 年の東日本大震災の経験を受けて J-STAGE 掲載データの永久保存に関し、対策が求められていました。

こうした背景から、J-STAGE 利用学協会へのヒアリング、関係機関である NII および CLOCKSS 側との協議を通じて、JST がまとめて参加することによる学協会のメリットが大きく、有意義であると判断できるため、平成 25 年度に CLOCKSS に参画する方向となりました。

<CLOCKSS とは>

CLOCKSS は、米スタンフォード大学が開発を行い、大学図書館などが連合して運営されているダークアーカイブサービスで、サーバを複数持ち、全世界的に分散配置することにより安全性を高めています。また、CLOCKSS サーバ間で相互にデータチェック・補完を行うことでデータの信頼性を高めています。欧米の主要出版社等が参加しており、日本の大学も参加しています。なお、国立情報学研究所(NII)様が日本のアーカイブノードとして、理事会にも参加しています。

CLOCKSS は、通常は公開されないダークアーカイブですが、障害発生時に J-STAGE サーバが利用できなくなった場合に、一時的に一般に閲覧できるようにするものです。

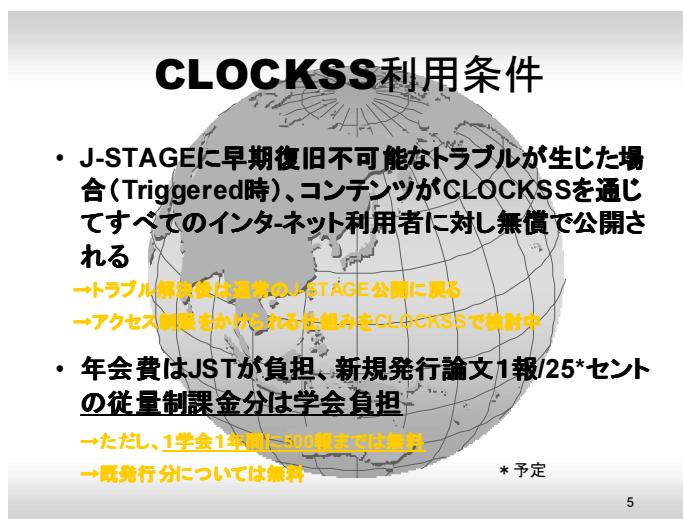
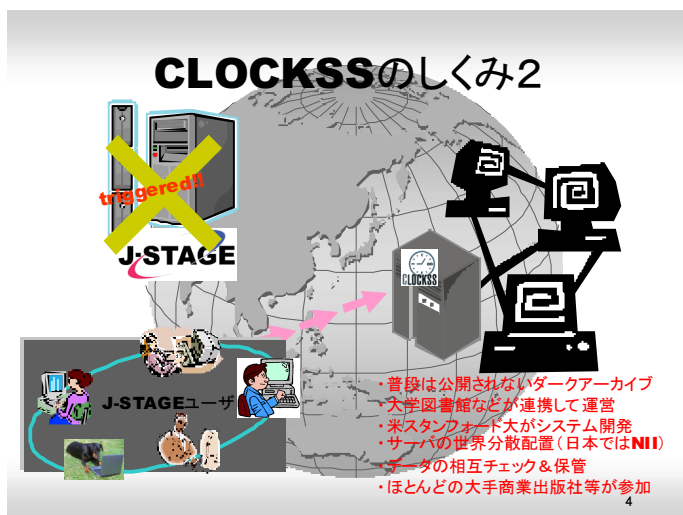
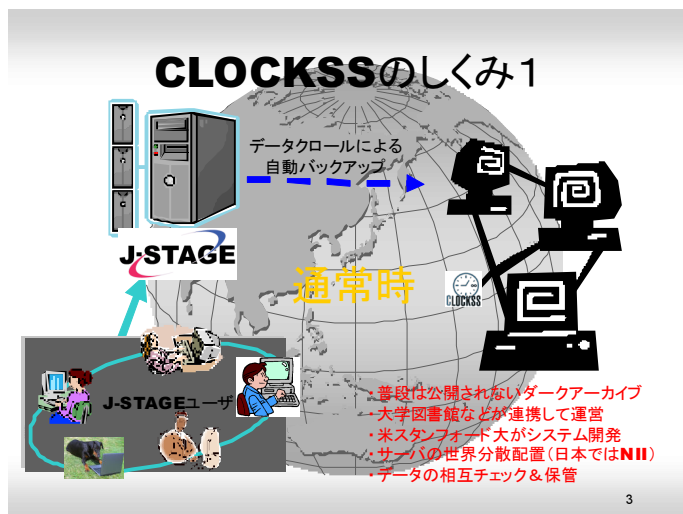
<参加方法、参加条件>

J-STAGE 利用学協会様に説明会、メール等で案内し、参加ジャーナルの応募を行い、参加の意思が確認できたところのみと覚書を締結します。当面の間、認証および課金を行っているジャーナルについては、無償公開となります。

<費用>

年会費は JST 負担とし、従量制部分については参加学協会様に負担いただきます。なお、年間 500 報 (225\$ 約 18,000 円) までは無償、かつ Journal@rchive を含め過去分は無料のため、学協会にとってはそれほど大きな負担とはならないと考えられます。なお、対象を論文のみとすることも可能です。

システムの準備が完了次第、学協会様にご案内を差し上げます。





〔シリーズ学会訪問〕～J-STAGE 利用学協会様の声～

〔日本素材物性学会様〕

本号では、日本素材物性学会会長である秋田大学大学院工学資源学研究科の濱田文男教授と佐藤英之事務局長様を訪問させていただきました。日本素材物性学会様は、昭和63年に設立され、1988年に和文誌「素材物性学雑誌」を1993年に英文誌「International Journal of the Society of Materials Engineering for Resources」を創刊、2誌とも創刊号よりJ-STAGEで公開されています。

一 濱田先生のお立場についてお願いします。

平成 15 年より当学会の 3 代目として学会長を務めています。平成 24 年からは編集委員長の二束の草鞋で活動しています。

一 貴学会の特色と刊行誌についてご紹介をお願いします。

日本素材物性学会は、昭和 63 年に研究会として、平成 2 年 4 月に現行の学会名に発展的に変更し現在に至っています。発足には当時の秋田大学鉱山学部の教員を中心に学会を立ち上げ、「細分化されている、これまでの諸工学分野を再精査し、個々の分野における別々の考え方を新しい概念に統合することにより素材に工学的問題の総合的ならびに地球規模的な課題の解決に寄与する」ことを設立の目標に掲げています。秋田の地域性から研究分野が鉱山資源を中心に展開してきました。それが特に昨今のエネルギー・資源問題と呼応し、その重要性は高まっていると考えています。

本学会では、4年毎に秋田市を会場に素材物性学国際会議「International Conference on Materials Engineering for Resources」を開催しています。1991年からスタートし2009年の開催で6回を数えています。本年11月20日から3日間、第7回目をやはり秋田で開催する予定です。会議には海外から20カ国以上の参加を予定しています。年會も秋田で6月に開催しており、地域に根ざした学会活動をしている、ある意味でユニークな学会だと思います。

学会誌は季刊号として和文誌・英文誌の計4巻を発刊し、オープンアクセス誌としてJ-STAGEで公開しています。

一 電子ジャーナル化への取組みとJ-STAGEをご利用になってのご感想をお聞かせください。(良い点、悪い点など)

地域に密着した学会ということから会員層が限定される傾向にあり、会員数の増加が進まずWeb上での公開の必要性を認識していました。J-STAGEでの論文公開できることが分かり全文公開に移行しました。J-STAGEは無料で外国からもアクセスでき、アクセス数が増加しました。さらに海外からの英文誌への投稿数増が期待されるなど、学会誌のアピールとなっているので満足しています。また、新システムでJournal@rchiveと統合したことは非常に良かったです。

ただ、当学会としてJ-STAGEの機能を十分に活用できていない部分があり、これからはいかに有効にJ-STAGEを活用して学会の発展に寄与できるかが課題です。本年、J-STAGEで公開を開始して初めて国際会議を開催することを契機に会員数の増加を図って行くことを考えています。また、投稿審査システムの利用を検討しています。

J-STAGEとの連携でインパクトファクターに掲載されるべき良い論文の発信に努めたいと思います。

一 日本の学術出版業界を巡る状況についてはどう思われますか。また、今後J-STAGEが果たすべき役割についてはいかがでしょうか。

良い論文を日本から発信するためにはJ-STAGEの活用が鍵になるのではないのでしょうか。J-STAGEとして搭載ジャーナルを世界にどう発信していくか、そのような機能に期待します。また、登載誌については教育分野のものや技術書を含め網羅的に収録するとともに新規性の高いジャーナルを公開して欲しいと思います。

地域性の高い学会としてはJ-STAGEの強力な支援を期待したいです。

一 ありがとうございます。ご指摘については今後も検討してまいります。より使いやすいシステムとなるよう頑張って参ります。貴学会のますますのご発展をお祈りいたします。



日本素材物性学会
事務局
佐藤 英之様

日本素材物性学会会長
秋田大学大学院教授
濱田 文男 様

平成 24 年度利用学協会意見交換・説明会を開催しました

平成 24 年度の J-STAGE 利用学協会意見交換・説明会を 1 月 17 日に東京、18 日に神戸で開催いたしました。電子ジャーナルや J-STAGE をめぐる最新状況のご報告のほか、神戸会場では関西地区で開催のご要望の多かった J-STAGE/学術情報 XML 協議会セミナー「XML がひらく学術出版の未来」(学術情報 XML 推進協議会設立記念講演会)のダイジェスト版を併催いたしました。また、今後の事業展開方針についてもご案内を差し上げております。資料を以下で公開しております。重要なご案内もございますので、J-STAGE ご利用学協会のみなさまはぜひご覧ください。

【開催報告】平成 24 年度 J-STAGE 利用学協会意見交換・説明会

https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S260_ja.html#130123

国内向けプロモーション報告

「JST情報サービスで解決！」サイト開設中

J-STAGEは、同じくJSTの提供する科学技術情報サービスである「J-GLOBAL(ジェイグローバル;科学技術総合リンクセンター)」「JREC-IN(ジェイレックイン;研究者人材データベース)」と合同で、国内における特に企業の方々向けのプロモーションを新規に実施しています。その一環として、「JST 情報サービスで解決！」サイトを開設し、マンガ等でわかりやすくサービスの特徴をお伝えしています。あわせて専門日刊紙等にも広告を掲載し、新規閲覧者層へのアピールをはかりました。Facebook や Twitter ページも設置しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。(「JST 情報サービスで解決」で検索ください)



J-STAGE最新アクセス状況 (速報値)

J-STAGE3 では、旧 Journal@rchive との統合、目次ページから本文 PDF へのリンク等、操作性の改善により全体的に本文(PDF/HTML)のダウンロード数が増えています。

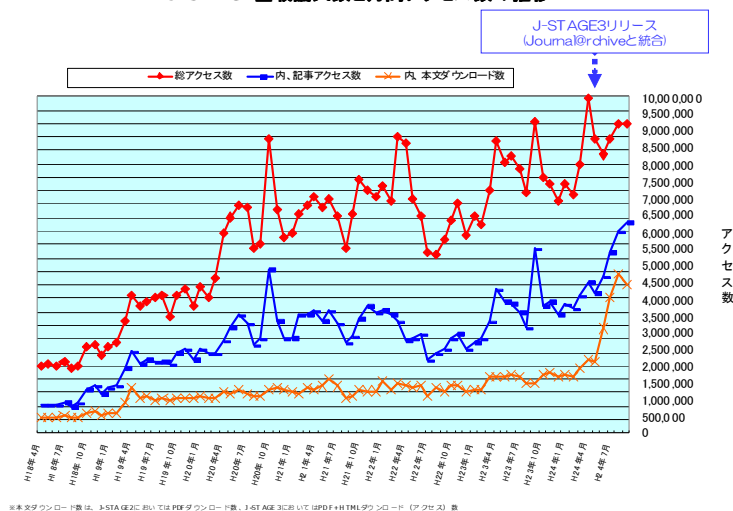
(2013年3月18日現在の J-STAGE 参加状況)

- 全収録誌数: 1,742 誌
- 全収録記事数: 2,475,928 記事
(内、ジャーナル:1,614 誌)
- ジャーナルカレント公開誌数: 926 誌
- J-STAGE 利用学協会数: 838

(ジャーナル本文ダウンロード数)

- 12月: 5,252,983 件
- 1月: 6,793,929 件
- 2月: 5,553,124 件

J-STAGE登録論文数と月間アクセス数の推移



編集後記

♪旧アーカイブ事業を担当し、今回異動することになりました。約4年、あっという間に過ぎ去った様な気がします。その間、色々な学協会様をご訪問し皆様それぞれ電子化に対する思いがありお忙しい中でも作業を実施していただき、誠にありがとうございました。オンライン公開できた事をお知らせすると、「電子化で長年の課題が解決でき、本当に良かった」とのご連絡をいただきホッとすると同時に「良かった！」と心から思ったものです。昨年アーカイブ部分はJ-STAGEと一体化し、益々利便性があがったものと思います。今後も皆様の暖かくそして厳しい目でJ-STAGEを育てていただきますよう、心からお願い申し上げます。(T.N.)

J-STAGE ニュース No. 35 2013年3月30日
 編集: 独立行政法人 科学技術振興機構 (JST)
 知識基盤情報部 電子ジャーナル担当
 発行人 知識基盤情報部長 大倉 克美
 〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
 電話 03-5214-8837(ダイヤルイン)
 E-MAIL contact@jstage.jst.go.jp

J-STAGE www.jstage.jst.go.jp

J-STAGE および J-STAGE ニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。
 JST 知識基盤情報部 電子ジャーナル担当 (contact@jstage.jst.go.jp)

Follow J-STAGE
 on Twitter @jstage_ej

